

2013.October



今号の内容

2020年東京 ～学長からの巻頭あいさつ～ オリンピック開催  民族同一性

教育・研究活動紹介 ～藤原伸彦研究室から～ もうすぐ大学祭!! 第30回鳴瀬祭実行委員会
 子ども歩き遍路へのお誘い あばばい笑顔の見たいんよ!

こんにちは **附属** です もえた!がんばった!! 体育大会 (附属小学校)
思い出に残る共同制作...ART部 (附属中学校)

ようこそ鳴門へ
 新人教職員の横顔

熱戦! 四国インカレ
 成績&写真集

国際交流 ほか
 留学生たちのレポート

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

◆◆◆ 学園だより No.68 ◆◆◆

CONTENTS

2013.10

2020年東京オリンピック開催と民族同一性	学長 田中 雄三	1
ようこそ鳴門へ ～新任教職員の横顔～		2
足立奈津子, 金児 正史, 金野 誠志, 小山 英恵, 高橋 眞琴, 畠山 輝雄, 池田 誠喜, 大林 正史, 倉橋 誠一, 黒田俊太郎, 田中 大輝, 古川 洋和, 松永 哲郎, 古川 聖登, 菅原 秀倫, 溝下 洋和, 松山奈央子		
熱戦! 第64回四国地区大学総合体育大会		8
競技日程・成績, 壮行会・各競技の様様		
教育・研究活動紹介		12
子ども歩き遍路へのお誘い	藤原 伸彦	
もうすぐ大学祭		14
あばばい笑顔が見たいんよ!		
	第30回鳴潮祭実行委員会委員長	小林 将大
課外活動News ～学生団体紹介～		16
青春謳歌だ! Let's tennis!	硬式テニス部	
劇団「どや!!」	劇団「どや!!」	
RF技術研究会が誕生しました!	RF技術研究会	
こんにちは附属です		18
充実した教育環境で遊ぶ子ども達	附属幼稚園	
もえた!がんばった!! 体育大会	附属小学校	
思い出に残る共同制作 ART部	附属中学校	
がんばっています! 就業体験	附属特別支援学校	
国際交流		20
留学体験記 -南アフリカ共和国 プレトリア大学留学報告-	宮崎 唯	
鳴門で暮らすということ～美しく穏やかな日本での生活を体験して～		
LIVING IN NARUTO, EXPERIENCING THE BEAUTIFUL AND PEACEFUL LIFE OF JAPAN		
	教員研修留学生 RASOLONAIVO Adriamanasina Rojoniaina	
オーストラリア研修に参加して	高田 愛	
健康手帳 「定番にみる日本人の伝統的ふるまい」		24
	心身健康センター所長	廣瀬 政雄
学生相談室だより 「一人で悩まないで話してみませんか」		25
	心身健康センター・学生相談室 カウンセラー	三輪 幸子
学生会・院生会だより		26
みなさんの力になれる学生会をめざして	学生会会長 千葉 晃平	
新たな院生会として	院生会会長 鈴木 藍	
なるきょう通信-大学からのお知らせ-		27
火災防止について		
平成25年度学生生活実態調査へのご協力をお願いします!		
訃報		
防災関係		28
行事予定		29
編集後記		29

2020年東京オリンピック開催と民族同一性

◆ 学長 田中雄三



私たちの自我は、いろいろなアイデンティティの束で出来ている。束の一つにナショナルアイデンティティ(民族同一性)がある。民族同一性というのは、自国の一員である

という所属感である。「愛国心」に通じるものがある。オリンピック競技などで普段関心のない競技種目に関して自国の選手を必死で応援したりするのは、民族同一性の表れである。民族同一性は、教育によって育まれるが、特定の教科があるわけではなく、個々人によってアイデンティティの強度には差異がある。

小学校5年の頃に、日本の捕鯨高は世界であることを教えられた。皆で拍手して喜び、シロナガスクジラ、マッコウクジラ、ゴンドウクジラなどの名前を覚えた。シロナガスクジラが一番大きかったことを覚えている。その前年には、サンフランシスコ平和条約が締結されていて、校長先生が朝礼で「日本は真の独立国になった」と訓示された。そして、ノーベル物理学賞・湯川秀樹博士の名前を挙げて、これからの日本は科学で身を立て世界一にならなければならないと言われた。

小学校6年の時、プロレスラーの力道山と木村がタッグを組んでアメリカのシャープ兄弟と対戦する試合をラジオで聴いた。「力道山と木村」が「シャープ兄弟」を打倒することを心から望んだ。力道山の空手チョップでアメリカに勝ちたかった。私は、教師から特別にナショナルアイデンティティを刷り込まれた覚えはないが、いつの間にか勝負や競技の世界では立派な民族主義者になっていた。

大学2年の秋、東京オリンピック(昭和39年)が開催された。その時には、私の家にもテレビが備えられていた。平日の秋の午後、何故か私一人

がテレビの前に座っていた。テレビは、重量挙げという初めて目にする競技を映し出していた。選手たちの気迫がテレビの前の私にも伝わり、思わず力が入っていた。この時、自衛隊員の三宅義信選手はフェザー級で優勝した。昭和39年の東京オリンピックで、まっ先に思い出すのは、何故か、私にとって未知のスポーツであったこの重量挙げの優勝場面である。日本の選手が勝ったことが、ただただうれしかった。

さて、2020年の東京オリンピックである。開催地の東京都、関係者は当然として、政府、報道機関もこぞって祝賀ムードである。プレゼンテーションは、高い評価を呼んだ。国民の大多数も2020年の東京オリンピックを歓迎しているという。これまで、2020年東京五輪招致に尽力された方々には深い敬意を表するものである。しかし、私は、何故か素直に喜べない。昭和39年のような情熱が湧き起こってこない。私のナショナルアイデンティティはどこにいったのかと訝しむ。そして、私の心に杞憂が住み着いたのだと気づく。《東日本大震災の復旧・復興は進んでいるのだろうか。東京電力福島第一原子力発電所事故への対応は進んでいるのだろうか。そして又、南海トラフが今後7年間に動く確率はどれくらいであろうか》。私も、もう一度東京オリンピックが見たい。見たいが、だがしかした。私は、心の中で優先順位を考える。

2020年東京五輪開催が、東北の人々を、日本人を、そして世界の人々をリフトアップするイベントになることを願っている。



ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 自然コース（理科） 准教授 **あ だち なつこ** 足立 奈津子

今年度4月より、自然系コース（理科）の地学担当教員として着任しました足立奈津子と申します。出身は大阪で、大学・大学院も大阪市内でした。その後、博士研究員として、宮城教育大学と中国北京大学でそれぞれ2年間、また、特任講師として大阪市立大学で2年間、研究と教育活動を進めてきました。

専門研究では、海洋生物化石や堆積岩（石灰岩）を基に、「生物の進化と地球環境の変動」を明らかにする研究を進めています。学生の方々が教壇に立つ際に必要な地学の知識を身につけられるよう、講義・実習内容の工夫をおこなっていくと共に、地学現象を野外で理解することの面白さも伝えていきたいと思っています。皆様、どうぞ宜しくお願いします。



◆ 教職実践力高度化コース 准教授 **か ね こ まさ ふみ** 金 児 正 史

今年度4月より教職大学院教職実践力高度化コースの授業研究及び算数・数学教育担当教員に着任いたしました。ちょうど20年前に鳴門教育大学大学院を修了し、縁あって母校に戻って参りました。私は昨年度まで30数年間にわたって公立中学校及び私立中学校・高等学校で数学の教員として勤務しておりました。私は算数・数学教育の実践と研

究に携わってきたものとして、この経験を最大限に生かして本学の教員養成に尽力するとともに、徳島県を中心とした教育現場での助言や支援に邁進する覚悟です。どうぞよろしくごお願い申し上げます。



◆ 現代教育課題総合コース 准教授 **か の う せい し** 金 野 誠 志

今年度4月、現代教育課題総合コースに着任いたしました金野誠志と申します。昨年度までは、広島県の公立小学校に26年間勤務しておりました。鳴門教育大学大学院現代教育課題総合コースは、ちょうど10年前に第1期生として私自身が修了し、深いご縁を感じております。授業は、大学院では「人間とコミュニケーションⅡ」・「人間とコミュニ

ケーションⅢ」・「コミュニケーションと環境」、学部では「生活科教育論」などを担当しています。理論と実践の関係性に注目しながら、〈指導する／される〉という一方的、固定的な関係ではなく、双方が学びあう応答関係を大切にしていきたいと思っています。どうぞよろしくごお願いいたします。



ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 芸術系コース（音楽） 准教授 こ山 やま英 はな恵 え

今年度4月より芸術系コース（音楽）に着任いたしました。小山英恵と申します。出身は関東で、この3月までは関西の大学院におり、そしてこのたび四国へと参りました。

専門は、音楽科教育学です。研究では、人間にとって自然な本来の音楽の営みとはいかなるものなのか、それを学校現場においてどのように実現

するのかということを探究し続けています。

本学において、学生さん一人ひとりがそれぞれに学問の魅力を感じたり、学びの喜びを体感したりすることのお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



◆ 特別支援教育専攻 准教授 たか高 はし橋 ま真 こと琴

みなさま、はじめまして。4月に基礎・臨床系教育部 特別支援教育専攻に着任いたしました高橋真琴と申します。これまでは、公立学校の教育職員として、約22年間学校教育に携わり、最近の7年間は、関西の大学で障がいに関する学際的研究に携わってまいりました。

本学では、特別支援教育の教育分野に関連する

授業を担当しております。学校教育だけではなく、地域の方々と共に考えていけるような社会教育的視座にも立って、教育・研究活動に取り組んでいきたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



◆ 社会系コース 准教授 はたけ山 やま輝 てる雄 お

今年度4月より社会系コースに着任いたしました畠山輝雄と申します。これまでは首都圏の大学に勤務し、地理学を教えていました。初めて西日本で勤務・生活することになり、新鮮な気持ちであります。

こちらでは、地理学分野の授業を担当させていただきます。鳴門市には、自然（瀬戸内気

候、渦潮、中央構造線など）や産業（農業、水産業、工業、観光業など）など、地理学にとって格好の教材があちこちに転がっていますので、授業や研究を通して、地域・社会現象への地理学的視点の重要性やおもしろさを伝えていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 教職実践力高度化コース 講師 ^{いけ} ^だ ^{せい} ^き 池 田 誠 喜

4月から教職大学院教職実践力高度化コースに着任いたしました池田誠喜と申します。昨年度まで東京都

公立中学校の教諭として保健体育教科や部活動の指導に従事するとともに、子どもたちの心のしなやかなさを育てることを目標として生徒指導及び教育相談活動に力を入れて取り組んできました。

本学では生徒指導に関わる理論や経験知を提供

させていただくことで、現職教員の方々の教職実践力向上に尽力したいと考えております。また心の問題を扱う道德教育を通して教職を目指す学部生の方々に学校現場の状況をポジティブに伝え、教職を目指す意欲が向上するよう取り組みたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



◆ 教職実践力高度化コース 講師 ^{おお} ^{ばやし} ^{まさ} ^{ふみ} 大 林 正 史

今年度4月に、本学の教職実践力高度化コースに着任いたしました大林正史と申します。出身は大阪で、

修士課程までは京都教育大学、博士課程では筑波大学の大学院に在籍していました。鳴門教育大学は、教育の単科大学という点で京都教育大学と雰囲気似ており、とても親近感を感じております。専門は学校経営学、教育行政学です。とくに学校

経営への保護者、地域住民による参加のあり方や、学校と家庭・地域間の連携を促すための学校経営のあり方について研究しています。教育面では、学校と家庭・地域間の連携について、現職の院生さんとの議論を通じて、互いに認識を深めていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



◆ 特別支援教育専攻 講師 ^{くら} ^{はし} ^{せい} ^{いち} 倉 橋 誠 一

はじめまして。今年4月に着任いたしました。昨年度までは、徳島県公立中学校教員（数学）として二十

数年間勤務しておりました。その間、本学大学院（障害児教育専攻）で研修の機会を得ることができました。その後、児童相談所に児童福祉司として4年間在籍し、養護（虐待等）・非行相談等に対処しました。

本学では主に、実地教育分野を担当しております。社会の変化に伴い、学校に求められる役割は変化していますが、十分な実践力を身に付けた、社会で愛される教員の養成に微力ながら精一杯努力いたします。どうぞよろしく願いいたします。



ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



昨年10月に、言語系コース（国語）の教員として着任いたしました、黒田俊太郎と申します。着任して一年が経過し、こちらでの生活にも慣れてまいりました。

鳴門教育大学に着任する以前は、中学校・高等学校・大学という複数の校種の教育現場で、国語や文学に関する教育・研究活動に携わってきました。

専門は日本近代文学です。特に、明治期の北村

◆ 言語系コース（国語）講師 黒田 俊太郎

透谷・島崎藤村から昭和期の日本浪漫派に至るまでの、日本のロマン主義文学・思想に興味を持っています。授業は、学部では「国文学特論Ⅰ」、大学院では「日本文学研究Ⅰ」などを担当しています。

授業などを通じて、文学的テクストを読解するための基礎的能力の修得に貢献し、また文学の豊かな世界に分け入る楽しさを伝えられるよう努めてまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



昨年10月に言語系コース（国語）日本語教育分野に着任しました田中大輝と申します。専門は言語学で、

言語使用者による知識の整理統合の様をモデル化することを目指し、とりたて詞や量化表現を含む文の意味を追究しています。

これまでは、日本語教師を目指す人たちへの教育に約5年、海外の大学での日本語教育に約4年、

◆ 言語系コース（国語）講師 田中 大輝

携わってきました。本学でも、日本語教師の養成と留学生への日本語教育を両輪として教育活動を行っています。とはいえ、日本語教師志望者や日本語学習者に限らず、ことばに興味があり「文法」「音声」「語彙」「言語習得」といったキーワードに心躍る人がいれば大歓迎です。ぜひ一緒にことばの奥深さを楽しみましょう。



4月から臨床心理士養成コースに着任いたしました古川洋和と申します。北海道生まれ、長野県や東京都の大学で勤務し、日本列島を徐々に南下して来

ました。

専門は臨床心理学で、主に行動科学の原理に基づいた実践と研究をしています。臨床心理士のもとには、何らかの困りごとを抱えた方が、問題を

◆ 臨床心理士養成コース 講師 古川 洋和

解決するために相談に訪れます。そうした方々へより効果的で効率的な支援策を提供できるように日々努力しています。

わが国では、メンタルヘルスの問題を抱える人が急増しています。このような社会状況へ貢献できる臨床心理士の育成を目指し、精一杯取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



◆ 生活・健康系コース（家庭）講師 ^{まつ}松 ^{なが}永 ^{てつ}哲 ^{ろう}郎

4月1日付けで生活・健康系コース（家庭）に着任いたしました。長崎県出身です。大学は広島で、大学院は京都で過ごしました。博士課程修了後、博士研究員その後特定助教として京都大学に約5年間勤務しておりました。専門は健康科学、食品機能学で生体機能の遺伝的個人差や食品成分が各種生理機能に与える効果などについて研究を行ってお

ります。授業は食品学、食物学概論、食生活学研究などを担当しております。

研究で得られた知見や最先端の研究情報をもとに、教育に新鮮な情報を取り入れていきたいと思っております。微力ながら本学の教育・研究の充実と発展のため努めさせていただき所存です。よろしくお願ひ申し上げます。



◆ 経営企画本部長 ^{ふる}古 ^{かわ}川 ^{まさ}聖 ^と登

8月1日から着任しました。前任は、文部科学省教科書課の課長補佐です。

それ以前には、市教育委員会の教育部長、大阪教育大学総務課長、文部科学省では、教科書検定のほか、特別支援教育（発達障害支援専門官をしていました）、道徳教育、生徒指導、スクールカウンセラー、いじめ問題などにも関わっていました。

鳴門教育大学は、トップクラスの教員養成の実績を誇る大学として、全国にその名が轟いていますが、私もこれまでの経験を生かして、さらにいい大学になるよう尽力します。

先生方、学生・院生のみなさん、このような「教育バカ」な私と教育を熱く語り合いませんか！お待ちしております！



◆ 人事課長 ^{すが}菅 ^{わら}原 ^{ひで}秀 ^{のり}倫

4月から経営企画本部人事課長に着任しました菅原です。前任は鳥取大学医学部の総務課長を2年間務めました。出身は宮城県（実家では震災による被害は、ほとんどありませんでした。）で、東北大学に採用、その後本省に転任し、初等中等教育局、文化庁、国立大学を数大学経験してまいりました。このたび、教員就職率3年連続全国第1位の実績

をもつ鳴門教育大学の一員となれたことに誇りに思っております。教員養成大学のトップランナーを目指す本学を支える役割を担い、より良い職場環境作りに努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひします。



ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～



4月から学生課長として
着任しました溝下と申しま
す。平成16年法人化の年
に鳴門教育大学から詫間電

波高専に出て以来、9年ぶりに帰って来ました。
前任は阿南高専で総務課長として3年、その前は
学生課長でした。高専と大学ではいろいろな違い
もありますが、課長まで育てていただいた本学へ
の感謝の思いを持って、学生が鳴門教育大学に来

◆ 学生課長 ^{みぞ}溝 ^{した}下 ^{ひろ}洋 ^{かず}和

てよかったと充実感、満足感を感じ確実な将来を
つかむことができるように、ここ鳴門教育大学か
ら日本の教育を支えるすばらしい教員を輩出でき
るように、少しでも献身できればと思っております。
どうぞよろしくお願
いいたします。



4月から心身健康セン
ターで勤務している看護師
の松山と申します。今年も
酷暑でしたが、皆さん体調

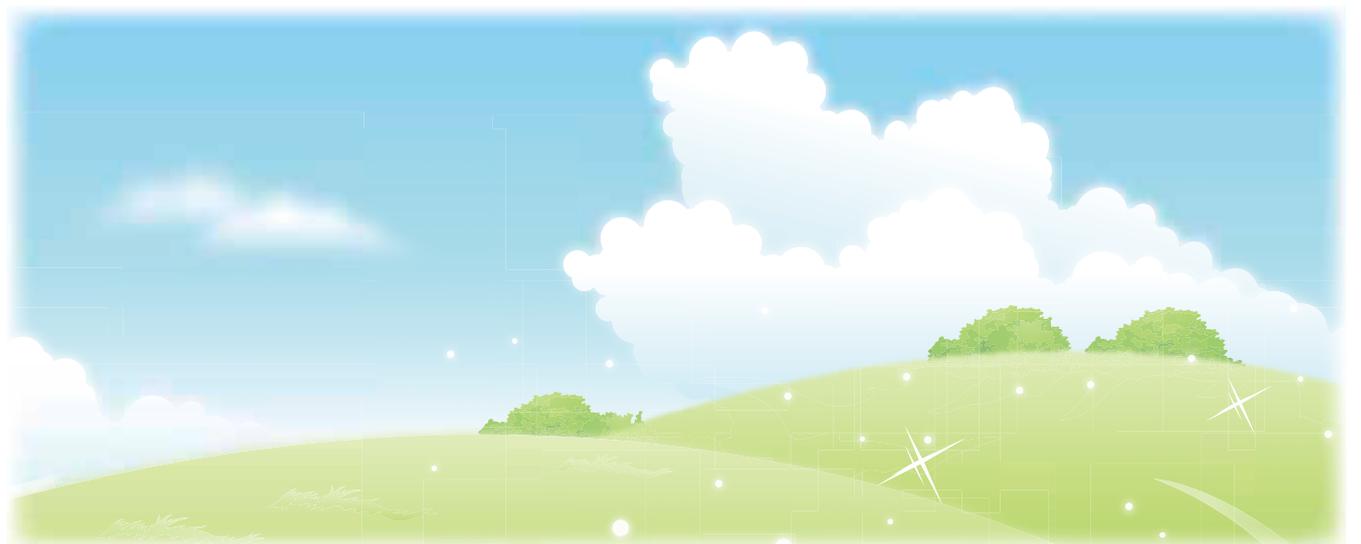
はいかがですか。健康管理にとって大事なのは、
生活習慣・環境を整え疾病を予防するという一次
予防です。

皆さんは、適切な食事していますか?運動不足
になっていませんか?ストレスを発散してしっか

◆ 心身健康センター看護師 ^{まつ}松 ^{やま}山 ^{なおこ}奈央子

り休息していますか?これらの実践は一見簡単に
思えるのですが、誘惑が多く複雑な現代社会では、
実践するのはなかなか難しいものです。そこで、
活用していただきたいのが心身健康センターです。

健康に関して日常でふと疑問に思ったことや相
談したいことがあれば、いつでもお越しく下さい。
お茶もお菓子もだしませんが、皆さんの健康保持
増進にお役に立てればいいなと思っています。



熱戦！第64回四国地区大学総合体育大会

第64回四国インカレが徳島大学を主管大学として徳島県内各会場で開催されました。

本学からは、15競技に20団体・総勢232名（男子171名、女子61名）の選手が参加し、熱い戦いを繰り広げました。

「ラグビーフットボール」・「硬式野球」・「ハンドボール」・「ダンス」の4競技を本学が担当し、管理・運営にあたり、多くの関係者の方々のご協力をいただきました。

〈結団式／壮行会〉 平成25年6月11日（火）18時15分～ 体育館／第一食堂

〈競技・会場・日程〉

参加競技種目	競技会場	開催日程
1 陸上競技	鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム	6 / 15 ~ 6 / 16
2 水泳競技	JAバンク蔵本公園 ちょきんぎょプール	6 / 22 ~ 6 / 23
3 硬式野球	鳴門・大塚スポーツパーク オロナミンC球場	6 / 28 ~ 6 / 30
4 硬式庭球	大神子テニススポーツセンター	7 / 5 ~ 7 / 6
5 バスケットボール	鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール	6 / 29 ~ 6 / 30
6 バレーボール	北島北公園総合体育館 / 北島町民体育センター	7 / 6 ~ 7 / 7
7 サッカー	徳島スポーツビレッジ	7 / 6 ~ 7 / 7
8 ラグビー	鳴門・大塚スポーツパーク 球技場	5 / 24, 26, 29
9 卓球	徳島市立体育館	7 / 5 ~ 7 / 6
10 バドミントン	徳島市立体育館	6 / 28 ~ 6 / 30
11 柔道	徳島県立中央武道館 柔道場	6 / 29
12 剣道	鳴門・大塚スポーツパーク ソイジョイ武道館	6 / 30
13 ハンドボール	鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール	7 / 6 ~ 7 / 7
14 弓道	鳴門・大塚スポーツパーク 弓道場	7 / 5 ~ 7 / 7
15 ダンス	鳴門市文化会館	7 / 6 ~ 7 / 7
16 フットサル	徳島大学（常三島）	7 / 6 ~ 7 / 7

〈大会成績〉

総合 男子8位（前回8位） 女子9位（前回10位）

競技別（4位以上） ラグビー 第3位
 陸上競技（女子総合） 第3位
 弓道（男子団体） 第3位
 ハンドボール（女子） 第4位
 フットサル（男子） 第4位

個人（3位以上）

【陸上競技】	廣田愛実里	女子走り高跳び	第1位	女子やり投げ	第3位
	林 亜佑美	女子走り高跳び	第2位	女子100m障害	第2位
	近藤 瑞希	女子100m障害	第3位		
	久保こころ	女子400m走	第3位		

熱戦！第64回四国地区大学総合体育大会



熱戦！第64回四国地区大学総合体育大会

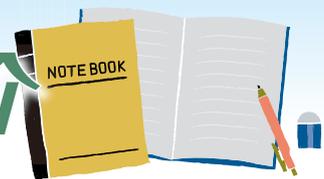


熱戦！第64回四国地区大学総合体育大会





教育・研究活動紹介



子ども歩き遍路へのお誘い

◆ 教員養成特別コース／鳴門教育大学教育と学校を考える会 藤原伸彦

鳴門教育大学 教育と学校を考える会の「子ども歩き遍路」は、今年で10年目を迎えました。毎年2泊3日で小・中学生30～40名と一緒に約40kmの行程を歩くこの活動も、リピータも増え、10年の間にずいぶん形が出来てきて、「子ども歩き遍路文化」とも呼ぶべき雰囲気が出来てきたように思います。

「教育と学校を考える会」は、当時鳴門教育大学の大学院にきていた現職院生が、『子どもとは何か』、『学びとは何か』、『全人格的な発達とは何か』、という教育の内実についての議論を深めながら「現在の教育や学校のあり方を考え」なおすことを目的として立ち上げたものです（鳴門教育大学教育と学校を考える会Webページより）。その際にやってみよう、ということになったものの一つが、（現在の学校で多く取り入れられている机について受ける授業スタイルとは対比的な）体験的な活動でした。体験的な活動は、そこに子どもたちにとっての「真の」体験が存在するならば、育ちと学びの場になります。「真の」体験というのは、子どもたちが人に言われたからやる、というようなものとは対極にある、その状況にどっぷりと身も心も浸し、没頭して、本気で活動

に取り組んでいる、そのような体験のことです。

「子ども歩き遍路」は、「真の」体験が得られるであろう活動として開始されました。

実際、活動が続けるうち、歩き遍路は、子どもが没頭して本気になっていく、そんな特性や魅力を備えていることが分かってきました。また、どのような手立てを講じればよいかについても、いくつか見えて来ました。

歩き遍路は、やるのが非常にシンプルです。札所から札所を歩いていく「だけ」です。加えて、この2泊3日の間だけは、学校や習い事といった日常から切り離されて歩き遍路のこと「だけ」をすればいいのです。「まだ続けたいのに他のことをやらなくては」とか、「次にやるのが気がかりで集中できない」といったことはありません。そういう意味でもシンプルです。ですがシンプルとは言ってみたものの、40kmも歩くことはそれほど簡単ではありません。一生懸命にならないと、札所や宿にたどり着くことは出来ません。みな、自分の体と心を使って進んでいきます。歩けば確実に目標に近づきます。そして、必ず目的地に到着します。この、やることはよくわかりシンプル、だけど大変、だけど挑みがある、というところが子どもたちを遍路の世界にどっぷりと浸り込らせてくれるのです。

子ども歩き遍路では、子どもが自分のしたいことを選べるようにする、ということを手立ての一つとして大切にしています。どこまで歩いて、どこで休憩するかは、一緒に歩くグループ、場合によっては各人にまかされています。必ず歩き通さなくてもよく、どうしてもしんどくなったら伴走車に乗ってもよいことになっています。一日の活



動資金を子どもたちに渡し、昼食をどこで何を食べるかを決めてよいようにしています。時には晩ご飯も自分たちで作るようにしたことがありました。札所以外にも、水族館や温泉に寄り道してもよいことにしたこともありました。「どうしても、家の人にお土産を買うんだ!」と少しずつ昼食代からお土産代をためるグループもあった



し、他のグループが温泉に入っているのがうらやましくて札所の片隅で30分もどうするか話し合いをしたグループもありました。自分がどうしたい、ということを考える中で、歩き遍路が子どもにとって自分ごととなり、みな本気になっていきます。

そんな子ども歩き遍路ですが、教育と学校を考える会のメンバーだけで実践できるわけではありませんでした。これまで、多くの学部生・院生や修士生、大学教員、事務の方々、一般ボランティアの方々に、子どもと一緒に歩いてもらい、大学からも数多くの支援をいただいたおかげで、成り立ってきました。多くの方々の気持ちが、子どもたちを受容する雰囲気となり、「お接待」の文化を持つ遍路文化と相まって、今の「子ども歩き遍路文化」が形作られてきました。当然、そこには、懸命に歩いたり、互いに励ましあったり、大きい子が小さい子の荷物を持ったり、夜寝るときに寂しがっている子に中学生が添い寝してやったりなど、子どもたちの優しさやひたむきさも入っています。

子ども歩き遍路は、出来る限りこれからも続けていくつもりです。学生のみなさんにも、ボランティアとして参加して欲しいと思っています。「そんなに歩くのは、大変そうだな」と、躊躇するかもしれませんが、リピータのある子どもは、「そんな大変だと思うけど、どうしてお遍路歩くの?」という質問に、「大変だからこそ、行く」と答えました。そんな魅力のある子ども歩き遍路、ぜひ子どもと一緒に歩いてみませんか?



もうすぐ 大学祭

あばばい笑顔が見たいんよ！

◆ 第30回鳴潮祭実行委員会委員長 小林将大

みなさんこんにちは！30回目となる鳴潮祭、このたび実行委員長を務めさせていただくことになりました小林将大です。今年の鳴潮祭は11月15日（金）～17日（日）に行われる予定です。さて今年のメインテーマは…



に決定しました。

このテーマは「あばばい」とまぶしいという意味の阿波弁を使うことに重点を置きました。阿波弁を使うことで、多くの徳島県民に馴染みやすい環境をつくりあげることができると思いました。また、徳島県に馴染みのない方々にも方言は珍しく「あばばいとはいったいどういうことか」と興味をもっていただきたいと思いました。多くの方々に来場していただきあばばい笑顔がたくさん見られることを願っています。

さて、今年の鳴潮祭に対して皆さんはどのような事を期待し、何を思っているのでしょうか？1年生にとっては初めての鳴潮祭で何もわからず、学祭ということで楽しみはあるが、少し不安もあることでしょう。ただ企画を盛り上げていく主役は1年生です。大いに活躍してくれることを願っています。4年生は実習期間と被り、なかなか参加できないかもしれませんが、鳴潮祭を3回も経験した知識を少しでも発揮していただけたら幸いです。2,3年生は去年、また一昨年を経験して

いることから「模擬店で美味しいものを作ろう」「N-1で皆を笑顔にしよう」「1年生の活躍を見届けよう」など個々思う事は違うでしょう。また、大学院生の方々、大学職員、来場者の方々も参加していただくうえで、プラスの気持ちで参加していただけるでしょう。

それぞれの思いを裏切らないよう、私たち実行委員13名は過去の実行委員の方々からアドバイスを貰い、企画や準備などを進め頑張っています。

では、ここで今年度の鳴潮祭実行委員会委員を紹介したいと思います。



もうすぐ 大学祭

第30回鳴潮祭実行委員会委員



広報としてスポンサー集めやパンフレット作成に励んでいる上段左より、くみ、あいちゃん、はるか、まなみちゃん／企画として企画作成やライブを手掛けている2段目左より、ウルージ、りょうけん、かつ／模擬店として衛生面などを重視してくれている3段目左より、のすけ、よしき、いたるーらも／三役として全体をまとめ取材や交渉を行っている最終段左より、しょうたろう、コバショウ、はるな

わからないことが多々あり、一つ一つの作業がなかなかうまくいかず、今まで立ち止まることが何回もありました。おそらくこれからも幾度となく訪れるでしょう。しかし、私たち実行委員は皆協力的で楽しく鳴潮祭成功のため助け合っています。

す。頼りない13名ですが、皆さまのご協力とご理解をお願いします。

最後となりましたが、鳴門教育大学同窓会、後援会の皆様、スポンサーを引き受けてくださった企業の皆様、学生課の方々など多くの支援により私たちは活動でき、鳴潮祭を行うことができます。本当にありがとうございます。



課外活動 News ★ ~学生団体紹介~

青春謳歌だ！ Let's tennis！

◆ 硬式テニス部 佐坂温子

私たち硬式テニス部は、夏はギラギラ太陽の下、冬はビュービュー風の中、主にテニスコートで活動しています。暑さにも寒さにも負けずボールを追いかける部員の姿はまさにテニスの王子様・王女様といっても過言ではありません。

そんな美形ぞろいの(?) テニス部は、春～冬のオールシーズンで行われる大会に向け日々の練習でレベルUPを目指しています。部活以外の日でも空いている時間を利用して自主練習をする部員もたくさんいます。テニス部は真面目だな…と思ったそこのあなた！確かに私たちは根は真面目です。しかしそこに面白さも兼ねているのが我らテニス部！男女の仲が良く、練習中も多才なギャグやユーモアあふれる行動でいつも部員の笑顔が絶えず、練習中の雰囲気は抜群です。経験者の院生さんがコーチとなって優しく且つ熱血に教えてくれたりもします。誰でも気軽に入ってこれる雰囲気がテニス部の一番の魅力です。

さあ！みんなでテニスをして大学生活を青春しましょう！男性も女性もみんなで色黒になってかっこよくなりませんか？



課外活動 News ★ ~学生団体紹介~

劇団「どや！！」

こんにちは！私たち劇団「どや！！」は毎週金曜日の18：30から学生会館、つまり学食の3階にある第2集会室で練習を行なっています。年3回行う公演に向けて日々仲間と遊んで交流を深めたり、劇の練習をしたり、一緒にご飯を食べたりと学部・院という学年を問わず仲が良い団体です。

演劇？そんなの恥ずかしい、と思う人もいるかもしれませんが。しかし、教師となった際に大勢の子どもたちの前に立って授業を行う際の度胸を育てるという点において我々劇団「どや！！」の右に出るものはいません。私たちの中には大学に入ってから演劇を初めてする、という人も多いので是非気になったら第2集会室へ一度遊びに来てください！お待ちしております！

また、第2集会室へ来るのが恥ずかしい人など

◆ 劇団「どや！！」 松崎千恵

いらっしゃったら12月に劇団「どや！！」と人形劇団ころぼくくさんなど演劇仲間と公演を行う『なると演劇祭』が行われるのでそちらを見に来てくださると私たちがどんな人たちなのかがよくわかると思います。

<中学校教育専修 美術科教育コース 4年>



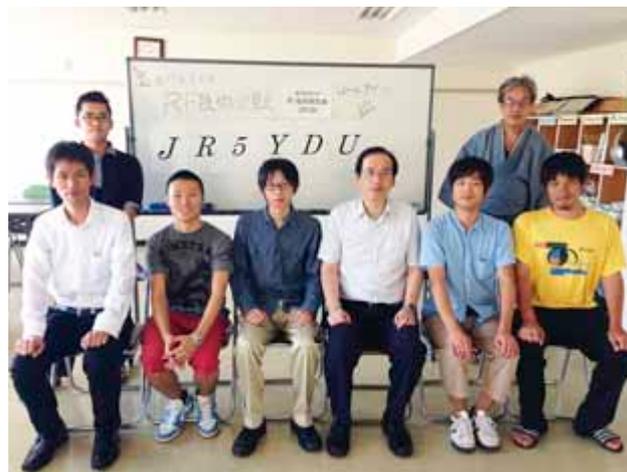
RF 技術研究会が誕生しました！

RF技術研究会が先日7月1日に設立許可をいただき誕生しました。まず、「RFって何？」という質問が聞こえてきそうですね。RFとはRadio Frequencyの略で高周波という意味です。電磁波や電気信号のうち、無線通信に利用できる周波数（電波）のことです。現在では、電波は携帯電話、スマートフォン、衛星通信などで利用され、私たちの生活には必要不可欠のものです。ところがこれだけ有用な電波も目で見ることはできないので存在すら感じることはできません。そこで電波の仕組みを学び、限りある電波を大切に使い、研究をしたいと思います。研究会を設立しました。設立のメンバーは大学院生活・健康系の技術・工業・情報コースの院生と技術科教育コースの学部生です。当初の活動として、まず電波を送信できるようにするため、アマチュア無線技士の資格を目指して挑戦

◆ RF技術研究会 新居 浩

中です。無線通信や情報技術に興味のある方、一緒に活動しませんか。お待ちしております。

<教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(技術・工業・情報) 2年>



幼稚園

充実した教育環境で遊ぶ子ども達

◆ 附属幼稚園 杉山 健人

昨年120周年を祝った附属幼稚園は、大学の皆様をはじめ、様々な方々から御支援を頂きながら今日を迎えております。今回は、ここ1年の幼稚園施設の充実ぶりをご報告いたします。

昨年の夏期休業中に、全保育室にエアコンが設置されました。今年の夏も酷暑でしたが、虫捕りやサッカーなど、子ども達は暑さに負けずに遊びます。保育室で過ごす昼食時や降園前の活動の時には、冷房の効いた涼しい部屋で過ごすことができ、子ども達の体調管理の面で、大きな役割を果たしてくれました。

園庭には、芝生が植えつけられました。3歳児星組の保育室の前からは、天気の良い日には、芝生の庭を駆けていく子ども達の声が聞こえてきま

す。運動会を控えた今は、全学級の子ども達がすずわりをしたり、綱引きをしたりと、異年齢の交流の場にもなっています。

今後も、大学の皆様からの御支援に支えていただきながら、子どもたちが安全で心地よい環境の中で、生活できるようにしていきたいです。



小学校

もえた！がんばった！！ 体育大会

◆ 附属小学校 富田 知之

附属小学校では、9月に体育大会を行っています。運動会とは呼ばず、体育大会と呼んでいるのは、この会のためだけに特別に練習するのではなく、体育の時間に学習したことの成果を発揮する大会であるべきであるという考え方に立っているからです。

本年度は、さわやかな秋晴れのもと9月22日（日）に開催されました。全校児童の入場行進に始まり、徒競走やリレー、綱引きや、表現運動など、各学年が様々な競技や演技に取り組みました。子どもたち一人一人が精一杯に力を発揮し、すがすがしい顔をしていました。

また、本校では、この時期に主免教育実習が行われています。普段は、授業観察や授業実践に勤

しんでいる実習生も、この日は、子どもたちとともに楽しんでいました。自分が配属する学年で表現運動と一緒に踊ったり、教生種目である「力をあわせて」で競い合ったりと張り切っていました。



中 学 校

思い出に残る共同制作 ART部

◆ 附属中学校 教諭 岩 佐 宣 之

9月6日(金)「Challenge～青春はここにあるッ！」をテーマとして文化祭が開催されました。文化祭は、ART部にとっては日頃の活動の成果を発表する大切な機会です。ART部員たちは、作品展に向けて会場となる美術室の飾り付けを行ったり、プラ板体験コーナーの用意をしたり、自分たちの作品の展示をしたりするなど意欲的に活動を行いました。今回の作品展で一番見て欲しかったのは、3年生による2枚の共同制作です。

制作に当たって3年生は、4月当初から準備を始め、様々な構想を練り、作品を完成させていきました。作品は、合板(900mm×1800mm)にアクリル絵の具を使い描いています。細かい部分や、根気がある作業もあり、夏休みも使って文化祭の直前にやっと完成させることができました。

制作を通して、生徒たちは協力して作品を完成させる喜びや、多くの人に見て頂く嬉しさなど、たくさんを経験することができました。今後も日々の制作活動を通して自己を磨き、仲間との交流を深め、楽しく活動を行っていきたいと考えています。



特別支援学校

「がんばっています！ 就業体験」

◆ 附属特別支援学校 校長 山 越 明

本校は知的な障害のある子どもが学んでいます。在籍している子どもたちは、一人一人個性や特性が違います。定められた教育課程の中で、個々の実態に即した学習を行っています。

さて、本校の子どもたちも高等部3年間の課程を修了すると社会に巣立っていきます。知的な障害のある子どもたちですから進学はありません。一般企業もしくは福祉サービス事業所で労働を中心とした生活を送ることになります。そこで、高等部では、卒業後の円滑な社会参加に向けて、6月と9月の年2回の「就業体験」を行っています。

生徒にとっては普段とは違う緊張を強いられる場面となりますが、卒業後の進路先での生活に向けて体験できる貴重な機会となります。今年は、鳴門教育大学でも図書館で就業体験をさせていた

できました。気づいた方もいたのではないのでしょうか。図書館で掲示しているシートも一部作成させてもらったようです。

今、特別支援教育の考えは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校にかかわらずすべての学校教育の中で欠かせないものとなってきています。生徒指導や人権教育、道徳教育と同じように、その基礎となる考えをすべての先生が身につける必要があります。大学から少し距離はありますが、見学は大歓迎です。興味のある方はお声をかけてください。





留学体験記

—南アフリカ共和国 プレトリア大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 ^{みや}宮 ^{ざき}崎 ^{ゆい}唯

留学を終えて、南アフリカ共和国（南ア）を選んで本当によかった！！と実感しています。豊かな大自然と様々な人が混在するこの国で、かけがえない時間を過ごすことができました。

教師になる前に世界、そして世界からの日本を見て感じたいという想いから留学を決意しました。私の専科は英語ではありません。私は語学力が乏しかったので、他国にて一年間の語学留学をしました。語学学校では、「英語をお学ぶこと」が主であるのに対し、交換留学では、「英語で学ぶこと」が主となります。語学留学を経験していても、海外の大学で何かを学び、それを習得することは決して容易ではありませんでした。

最初は、相手の話すスピードやイントネーションの違いから一度で聞き取れず、自分の想いを伝えることすらできませんでした。また、治安もあまりよくないという事前情報で不安がありました。しかし、実際に生活してみることで国の印象が変わり、自分自身も成長できたように思います。

大学では、理科教育を中心に勉強しました。講義では、南ア独自のカリキュラムを学ぶことに加えて、現職の先生方と新しいカリキュラムを思案しました。他にも先人の知恵を学んだり、中高校生を対象とした科学コンテストで審査員を務めたりとどれも独創的で興味を惹くものでした。講義は、難しく課題に追われて大変ではありましたが、そこには新たなことを学ぶ楽しさを感じました。

南アは、「人類の原点」といわれ、博物館や文化遺産が数多く存在します。さらに、人種隔離政策が行われていた過去があります。私は、何冊もの文献や資料から残酷な差別の事実を知りました。そして実話を聞き、言葉にならない感情が込み上げてきました。人間にとって平等とは何か、生きることの大切さを深く考えるきっかけとなりました。歴史を学ぶことは、その国の教育や政治を考える上だけでなく、自分の存する土地やその背景を知り、未来を築く大切な役割があることに気づきました。日本にいたるだけでは得ることのできない学びであったと実感しています。

留学中には、週2回の剣道を楽しみました。武道を通して、日本の心を愛する現地の人々に触れあうことができました。一緒に汗を流した友人たちとは今でも繋がっています。この国に来て、私は何度もいろいろな涙を流しました。この涙は、私を大きく、そして強く成長させたと思います。日本人の少ない南アだったからこそ、日本人としての誇りを感じることができ、何よりも「生きること」の大切さを体感できました。

私は、この留学で学んだことや感じたことは、全て将来に役立つと考えています。今後は、教師として子どもたちに「命の大切さ」を伝え続けていきたいです。

すべての人に感謝申し上げます。

（人間教育専攻 現代教育課題総合コース2年）



協定校 プレトリア大学（南アフリカ共和国）

プレトリア大学とのお付き合いは、本学が1999年から南アフリカ中等理数科教員再訓練計画（MSSI）に参加し、同大学教員と共にプロジェクト業務に従事したことがきっかけとなって始まりました。現在も国際教育開発の分野で同大学の教員と共同研究を行っています。国際学術交流協定及び学生交流実施細目は2002年に締結されました。筆者は本学からプレトリア大学への2人目の交流学生です。受入れた交流学生は今まで6人で、今年度は久しぶりに10月から留学生が来てくれます。



鳴門で暮らすということ～美しく穏やかな日本での生活を体験して～ LIVING IN NARUTO, EXPERIENCING THE BEAUTIFUL AND PEACEFUL LIFE OF JAPAN

◆ 教員研修留学生 ラスルナイブ アンドリアマナシナルズニアイナ RASOLONAIVO Adriamanasina Rojoniaina (マダガスカル)

I first met Naruto on a fresh afternoon of spring. The breeze was soft and tenderly touching my face, the cherry trees were beautifully decorating the whole town giving an impression of magic. Naruto was not really the real image I had of Japan, but I was happily surprised to discover the beauty of the place and I immediately fell in love with this place where calm and serenity seemed to be kings.

Though it took me a little while to get used to the dormitory life, I now enjoy the place I live in and I prefer studying in my room rather than in any other place. At first, the place was too quiet, and I rarely meet people. Loneliness came to knock at my door during the very first days, but the presence of my international friends who partly became members of my family helped me not feeling too lonely. Indeed, Japan gave me the fabulous gift of experiencing the most beautiful friendship in the midst of diversity.

The life that I have in Naruto University of education is a brand new experience for me. My major is English language education, but at the university, I am learning much more. For example, discovering through my own eyes, listening with my own ears, and learning by my own way the Japanese culture and the Japanese language bring me a broad perspective on viewing this amazing country. My professors, the members of staff at the university, the students are great people that are always ready to offer help and assistance in everything. Accordingly, one thing I love about Naruto is the kindness and the hospitality of its people. People seem to live in total harmony with the whole environment. The melody of the blowing wind, the imposing beauty of the clear blue sea, the songs of the playing birds, the majesty of the mountains make Naruto a place of wonders where you could definitely taste the authentic and pure heart of Japan. It is the best place to find peace and serenity, and indeed the perfect place to concentrate on studies. I will never regret having chosen this place for my studies. I love Naruto.

私が初めて鳴門を訪れたのは、ある爽やかな春の午後でした。やわらかく優しい風が私の頬を撫で、桜の木々が魔法をかけたように町全体を美しく彩っていました。鳴門は私がイメージしていた日本とは少し違っていました。しかし、鳴門という土地の美しさを幸せな驚きをもって見出した私は、たちまちこの閑静な場所が大好きになりました。



寮生活に慣れるには少し時間がかかりましたが、今では寮の生活を満喫し、むしろ他のどの場所よりも、自分の部屋で勉強することを好むようになりました。鳴門はあまりにも静かで、滅多に人に会うこともなく、最初の数日間は寂しい気持ちになりましたが、今ではまるで私の家族の一員といってもよいくらい親しくなった留学生の友人の存在が、孤独感を和らげてくれました。ここでは、実に多様な仲間たちと素晴らしい友情を築く機会に恵まれました。

鳴門教育大学での生活は、私にとってまったく新しい体験です。大学での専攻は英語教育ですが、それ以上にたくさんの事を学んでいます。例えば、日本の文化や言語に自分の目や耳で直接触れ、そして、私ならではの方法でこれを学ぶことで、この素晴らしい国に対する広い視野を得る、といったように。大学のスタッフや学生達は、私が困っているといつも手を差し伸べてくれる素晴らしい人々です。

鳴門が大好きな理由のひとつは、地元住民の優しさとおもてなしです。人々は環境との完全なる調和の中で生活しているように思います。風が奏でるメロディー、澄んだ青い海、鳥たちの合唱、そびえ立つ山々などが、日本の真の美しい心を味わうことの出来る鳴門を造っているのだと思います。それは平和と安らぎを見付けることの出来る最高の場所であり、学業に専念するのに最適な場所だと思っています。私は鳴門を研究の場所として選択したことを後悔することは絶対にありません。鳴門が大好きですから。



オーストラリア研修に参加して

◆ 学校教育学部 ^{たか}高 ^た田 ^{あい}愛

今回、私は南オーストラリアのアデレードという街に24日間滞在し、本物の英語や外国の空気に触れるという貴重な体験をさせていただいた。その時の写真や日記を見返すと、本当に充実した日々を過ごしていたのだとわかる。だが、実は私は、この研修に参加するかどうかかなり迷っていたのだ。たった3週間の滞在でどれほどのものが得られるのかという疑問、英語が得意ではないという不安があったからだ。一方で、以前から海外には興味があったので行ってみたいという気持ちもあった。友達が誘ってくれたことが大きかった。挑戦するきっかけをくれた友達に本当に感謝している。

3週間、午前中は英語コミュニケーションの授業、午後からはフリータイムという日程だった。授業はアデレード大学の留学生のクラスで行われ、Mikiというとても可愛らしい先生が担当してくれた。教室での授業の他にも、美術館や、ランドルモールという大きなショッピングモールや、セントラルマーケットという市場等に皆で行き、そこで見たものについて英語でプレゼンすることもあった。また、アデレードの中心から少し離れたバロッサ・バレーという街に行き、その小学校と高校の授業を見学する機会もあった。他にも、グレネルグというビーチに皆で行ったり、週末にアデレード動物園に行ったりと毎日本当に充実していた。25日にはクリーンランドという動物園のようなところに行き、念願のコアラ抱っこができた。ふわふわでとても可愛らしかった。コアラのほかにもカンガルーやワラビーもたくさんいて、手で餌をあげることができた。いちばんオーストラリアにいることを実感した気がする。29日に

はアデレードの南にあるカンガルー島に片道3時間かけて行った。カンガルー島は景色がとても綺麗で、野生のアシカやコアラやワラビーもいて、とても感動した。このような貴重な体験をたくさんできたことは私の一生の財産になると思う。

私はこの研修を通して、予想以上に成長できたと感じている。英語の勉強はもちろんだが、それ以外に2つの大切なものを得た。まず1つめは、以前よりも積極的になったことである。もちろん3週間の海外滞在自体が、自分にとっては既にかなり大きな挑戦であった。しかしそれ以上に、オーストラリアでは何をするにも積極性が必要とされたのである。知らない店に入るのも、道を訪ねるのも、ホストファミリーとの会話も、初めはとても勇気が必要だった。日本では、今までの私では、絶対にできなかったと思う。しかし、せっかくここまで来たのだからいつも通りではだめだという気持ちが背中を押してくれた。そうしているうちに、少し勇気を出せば世界は大きく広がるのだということに気づいてきたのだ。だから、日本に帰ってもこの気持ちを忘れないようにしようと強く思った。2つめは、日本の文化を知ることの重要性に気づいたことである。私がお世話になったホストファミリーはかなりの親日家であった。そのため、日本のことをたくさん質問されたのだが、私はまだまだ知らないことばかりだということを感じた。とくに、出身地である徳島県のことを上手く答えられなかった時はショックだった。せっかく海外に行って現地のことを勉強しようと思っても、日本のことを知らなければ比べる対象がない。それはとてももったいないことだと思った。

国際交流



以上2つのものを得られたことは間違いないと自信を持って言える。なぜなら、私は帰国後すぐ、ボランティア活動やアルバイトを始めることができたからだ。どれも、以前からやりたいと思いつつあと少しの勇気が出ずに躊躇していたものだ。また、ふるさと徳島のことを身をもって学びたいと思い、阿波踊りの連にも入った。私は、新しいことに挑戦する勇気、日本のことをもっと深く理解したいという探求心をこのオーストラリア研修で手に入れることができたと感じている。たった3週間の研修で、自分がこれほど変われるとは思っていなかった。この研修に参加して本当に良かったと思っている。もちろん語学研修であるので、そちらの方の内容もかなり充実していた。だから、少しでもこの研修に興味を持っている人は勇気を



出して参加してみたい。きっと想像以上のものが得られるはずだ。

〈小学校教育専修 国語科教育コース 2年〉

<研修担当コースから一言>

オーストラリア研修は、毎年3月に本学の学部生・大学院生を対象に実施している海外研修プログラムです。このプログラムに参加すれば、選択必修科目である英語コミュニケーションVの単位が取得可能です。わずか3週間のプログラムですが、高田さんが報告してくれているように、日々実に貴重な体験を得ることができます。自分を見つめ直し、自分を変えていくためのきっかけにもなります。今日、教育現場でも着実に国際化が進行しています。この海外研修プログラムに参加して、異文化間理解を体験してみてください。

(言語系コース(英語), 伊東治己)

平成25年度 外国人留学生現員表

平成25年10月1日現在

区分	ミャンマー	タイ	マレーシア	インドネシア	韓国	中国	台湾	ネパール	マダガスカル	ガーナ	ウガンダ	南アフリカ	ルワンダ	ハンガリー	アメリカ	グアテマラ	フィジー	サモア	計
大学院学生				1		21	2	1					1		1		1	1	29
教員研修留学生	1		1	1					1	1	1			1		1			8
研究生	大学院				1	2													3
	学部					2													2
特別聴講学生		3				2						1							6
合計	1	3	1	2	1	27	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	48

健康手帳

定番にみる日本人の伝統的ふるまい

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



わが国の多くの医学研究のうち、細菌学者で黄熱病や梅毒の研究を行なった野口英世博士（1876-1928年）と破傷風とジフテリアの研究を行なった北里柴三郎博士（1853-1931年）の業績がよく知られていて、ともにノーベル賞候補者になりました。これらは主に留学先での研究が認められたものでした。一方、国内で独自に成し遂げられたものとしては、華岡青洲の業績があります。花岡青洲は曼陀羅華の花などから麻酔薬を完成させ、1804年に世界最初の全身麻酔下の手術を成功させました。この業績は世界的に非常に高く評価されています。

それほどよく知られていませんが、荻野久作先生（1882-1975年）は産婦人科医師として、妊娠と出産にかかわる事故で多くの女性の悲劇を体験するうち、当時分かっていなかった女性の月経周期と妊娠の関係を研究し、排卵が月経初日から14±2日に起きることを発見しました。しかし、当初、わが国では反対意見も多く、世界産婦人科学会で発表するなどして、世界的に認められるまで受け入れられなかったといわれています。現在、この発見に基づいた避妊法は「オギノ式」として広く知られています。

光触媒の原理を発見した東京理科大学学長の藤島昭さんは、その経緯について、大学院生の頃（1967年）、偶然入手できた酸化チタンの単結晶と白金を電極としてキセノンランプの強い光を当てる実験を試みたところ、酸化チタンからは酸素が、白金からは水素が出ることを観察したそうです。これが光により水の分解が起きるという発見になり、抗菌作用を持つ製品の開発に利用されています。しかし、当初は国内で全く評価されず、学会でも「もっと勉強してから研究しなさい」などと論されたということです。その後、この成果がNature誌に掲載されると、国内の反響が信じられないほどに変わったということでした。

東北大学の西澤潤一さんは、光通信に関して

独創的な業績をあげましたが、国内では理解者に恵まれなかったそうです。そのためアメリカのコーニング社に応用特許の面で先んじられて、実用化に当たって巨額の特許料を支払う羽目になったということです。

最近、日本人になった日本文学（文化）研究者のドナルド・キーン（雅号は鬼怒鳴門）さんによりますと、日本人は既に認められたもの（定番）に対して強い執着を示す性質があると述べています。中世以来、日本の旅人は常によく知られた場所に旅行し、桜か紅葉をほめそやしてきましたが、知られていないものに対しては、それがどんなに美しいものでも一言一句も費やすことがなかったようです。平安時代に成立した歌物語の伊勢物語にでてくる杜若で名高い八橋には、既に杜若がなくなって久しいにもかかわらず、繰り返し旅人が訪れたということです。桂離宮や二条城の建築と造園に才能を発揮した小堀遠州に至っては、500年後にも八橋で杜若のあとを尋ねて、杜若が既がないことを再確認したそうです。川端康成は「東海道」という作品の中で、「先人の足跡に従って、名所旧跡にお百度を踏むだけで、無名の山川をみだりに歩かぬのが、日本の芸の修行の道であり、精神の道しるべだった」と述べています。まさに、日本人は先人の体験を再体験することを常に望んでいたのです。

国内での成果を認めることにおいて慎重な姿勢のようにみえますが、一旦海外で認められると手のひらを返したように参集する日本人の態度は、中世以来の伝統的なふるまいやものの見方が影響しているかもしれません。定番に対する日本人の姿勢は、学ぶときには長所かもしれませんが、発明や発見を客観的に評価する場合には短所となりえます。発見や発明はもとより重要ですが、国際化の時代には、独創的な発想や成果を正しく評価できる人を多く育てることも大切なようです。

学生相談室だより



一人で悩まないで話してみませんか

◆ 心身健康センター 学生相談室 カウンセラー 三輪 幸子

みなさんは、悩みがあるとき、どうしていますか。相談できる人は、身近にいますか。その人は、何でも話せる人ですか。

相手にどう思われるだろうかと不安になって相談できずにいたり、相談なんて弱い人間がするもんだと自分だけで解決しようと無理をしていませんか。

あるいは、誰にも悩みを伝えられず「こころ」が疲れ、傷ついていませんか。

悩みを誰かに相談するという事は、これからのみなさんの人生において、素晴らしい能力なのだと私は思います。相談は、自分の悩みや問題と向き合い、整理したり、解決するための大切な作業だからです。そして、何よりも自分のことをもっと理解できるようになります。

誰かに話を聴いてもらうだけで「こころ」が楽になり、元気になれることもあります。言葉にすることで意識化されるので問題が明確となり、解決につながることもあります。場合によっては、相談の途中で辛さや苦しさが出てくることもありますが、それも乗り越えてゆける力を養いましょう。

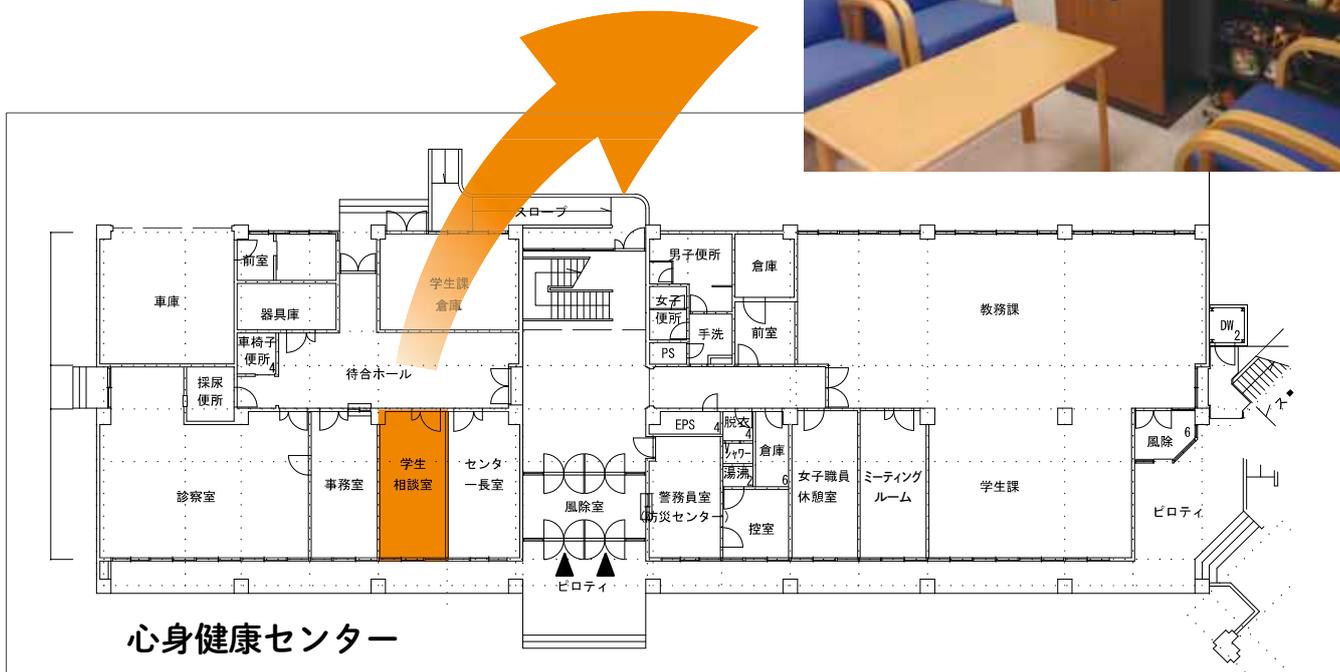
答えはすべてあなたの「こころ」の中にあり、自分でしか問題解決できません。一人では、なかなかできにくい作業です。相談室は、みなさんのそういった作業に寄り添い、お手伝いできるようにと用意された場所なのです。

どんな小さな問題や心配ごとでも大丈夫です。相談したいことができたときは、ぜひ学生相談室を思い出して、気軽に利用してください。

要予約：心身健康センター 088-687-6631（松山看護師）

日 時：本学担当教員への相談：随時

カウンセラーへの相談：水・木（12時00分～17時00分）



心身健康センター

みなさんの力になれる学生会をめざして

◆ 学生会会長 千葉晃平

みなさん、こんにちは！学生会会長の千葉晃平です。そのまえに、みなさん、学生会って何をしているのかご存知でしょうか。写真の通り、夏はかき氷大会。麦わら帽の彼の笑顔が表しているように今年は大盛況。行列ができるほどでした。同じような企画として、冬はココアデーを企画しています。お楽しみに。ほかには、卒業記念パーティーの企画・運営を担当しています。これらの活動はすべて、実は学部生のみなさんからいただいた学生会費を使って行われている活動です。私たち学生会は、どうすればみなさんに還元できるように使えるかというのを常に考えながら活動しています。しかし、これは、私たちだけで考える問題ではないのかな、という風にも思います。ですからこれからは、学部生のみなさんに意見を求めていく、そういった場もどんどん増やしていき

たいと考えています。今後11月には、徳島ヴォルティスとの連携企画で他大学、高校との交流もあります。そういったことを通して、いろんなことを吸収し、学生生活をよりよくするために頑張っていきたいと考えています。2013年も4か月。全力で過ごしたいです。



かき氷大会

新たな院生会として

◆ 院生会会長 鈴木 藍

本学に入学して、早くも半年が経とうとしております。鳴門は猛暑も和らぎ、夜は涼しく、秋を感じる季節となってきました。この学園だよりが発行される頃は、冬が近づく頃でしょうか。

思えば入学当初、他コースの方とも繋がりを持ちたいと院生会に入らせていただき、そして、院生会を統括する院生会長という役職を任せていただくこととなりました。

様々な不安を抱えるなか、新たな院生会メンバーでの最初の主催イベントであるソフトボール大会が、6月中旬に開催されました。2日間での開催ということで、各コースの院生会メンバーや、学生課の方々、前院生会の方の多大なご支援・指導協力のもと、余裕を持って準備を行うことができました。1日目の午後はいにくの雨天となってしまう、2日目への延期分が多くなったものの、余裕もったタイムスケジュールが功を奏して、無事大会を終えることができました。また、同6月下旬には国際交流パーティーも開催し、日本人

の院生はもちろん、学校関係者や留学生の多くの方々にも参加していただき、大いに盛り上がりました。中でも全員で踊った阿波踊りは、とても印象的だったと感じます。

どちらのイベントにおいても、参加されたみなさまから「楽しかった！」というお声掛けをいただき、企画・運営の楽しさはこちらにあるのだろうと実感いたしました。院生会員の方々には本当に感謝しております。また、後期にはソフトボール大会も開催されます。院生会活動が皆様の学生生活に少しでも思い出に残るよう、これからも日々精進してまいります。





火災防止について

可燃物（油・炭・花火・可燃ガスを利用したスプレーなど）の取り扱いを誤ると火事や火傷などの悲惨な事故につながります。常日頃から次の事項を確認・励行し、火災発生を未然に防止するよう注意してください。

また、大学が実施している防災訓練【**今年度は、平成25年11月26日（火）開催**】にも積極的に参加しましょう。

- 建物の周りや廊下・階段に、新聞・雑誌等の燃えやすいものを置かない。（可燃物を部外

者の目に届く場所に放置しない。）

- 普段から整理・整頓に留意し、安全な避難路を確保しておく。
- 防火扉の前には物を置かないなどの心がけが、火災発生時の被害を最小限に食い止めます。
- 消火器の場所と使用方法を把握しておく。
- 喫煙時、吸殻の始末には、特に注意する。ポイ捨て厳禁！



平成25年度学生生活実態調査へのご協力をお願いします！

「学生生活実態調査」とは、学生の生活実態を把握し、学生支援の基礎資料を得ることを目的に、隔年で実施しているものです。

【前回：平成23年度】

学部・大学院生全員が対象となりますので、ご協力をお願いします。

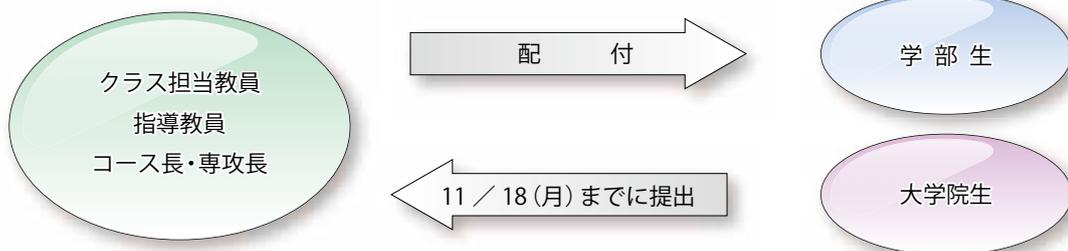
調査票提出締切日：平成25年11月18日（月）

※調査票は、10月末～11月初旬に配付予定です。

※調査票から個人が特定されることはありません。

※調査票に記入後、封筒に入れて提出してください。

<調査の流れ>



訃報

大学会館理容室の店主、藤本^{としみ}十四三様が8月24日（土）に79歳でご逝去されました。藤本様には「藤本節」ともいえる素晴らしい声で、楽しいお話をたくさん聞かせてくれたこと本当に懐かしく感じます。体調を崩し病床に伏してから、

早く元気になって店に復帰することを目標に頑張っておられました。奇しくも戻ることはできませんでした。今まで大学の教職員、学生及び地域のためにご尽力くださったことに感謝するとともに故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。



防災訓練を行います！

◆ 経営企画本部 施設課

徳島県は、南海トラフ巨大地震が発生した場合、甚大な被害の発生が想定されており、大学では災害に備えて毎年秋頃に防災訓練を行っています。

今年度は、平成25年11月26日（火）13時から防災訓練を行います。積極的にご参加ください。

まず始めに徳島県消防防災航空隊の防災ヘリコプター「うずしお」による救出・救助の展示訓練を行います。11月26日（火）13時30分までに陸上競技場までお越しください。

その後、緊急地震速報を全館に配信し、地震が発生したとき、更に津波が発生したときを想定し、大学職員を中心に構成された自衛消防隊の避難訓練を行います。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降、防災に対する意識が高まる中、大学院授業「教育実践フィールド研究」受講生（担当：現代教育課題総合コース谷村准教授）は「防災」をテーマに様々な取り組みを行ってきました。その一環として、今年度の教育実践フィールド研究受講生は、大学の防災訓練に参加するだけでなく、日常の防災意識を更に高めるためにイベントを企画しました。また、それに関連したスタンプラリーも行う予定です。スタンプ獲得者には、防災訓練後に教育実践フィールド研究受講生が開催する「なるさい!!!!」の参加権が得られます。防災に関する知識を習得するチャンスです。皆さん奮ってご参加ください。

鳴門教育大学は、私たち教職員の避難場所のみならず、近隣の鳴門西地区の避難場所としての役割も持っています。そのため、鳴門西地区の住民

は毎年行う大学の防災訓練に多数参加する他、今年度は鳴門西地区の小・中学校も11月26日に大学へ避難する訓練を行うことが予定されています。皆さん、積極的に防災訓練に参加し、将来教員となったときにはどのように行動しなければならないか、防災訓練への参加を通じて一緒に学びましょう。

昨年度の防災訓練風景（AED体験訓練）



（消火器体験訓練）



（はしご車による避難訓練）



行 事 等			
共通	10月1日(火) 創立記念日(32周年) 10月2日(水) 授業開始 10月9日(水) 「後期履修登録」締切 10月10日(木)～10月16日(水) 後期履修登録変更期間 11月15日(金)～11月17日(日) 大学祭・学生表彰表彰状授与式 12月18日(水)～12月25日(水) 冬期集中講義 12月26日(木)～1月5日(日) 冬期休業 1月25日(土) サークル・リーダーシップ・セミナー 3月1日(土)～3月31日(月) 学年末休業 3月18日(火) 学位授与式, 各賞授与式, 学生表彰表彰状授与式		
	学部	10月16日(水)～10月29日(火) 施設実習(2年)【鳴門こども学園等】期間中10日間 10月21日(月)～10月25日(金) 特別支援教育観察実習(4年)【附属特別支援学校】 10月21日(月)～11月15日(金) 特別支援教育実習(4年)【附属特別支援学校, 県立特別支援学校】期間中2週間 10月22日(火)～10月23日(水) 3年次生合宿研修 10月28日(月)～11月8日(金) 副実習(4年)【附属小学校, 附属中学校】 1月31日(金) 「卒業研究」提出締切 2月17日(月)～2月21日(金) 後期試験期間	
		大学院	11月29日(金) 1年次生(修士)(長期履修2年次)「学位論文計画書」提出締切 1月20日(月) 2年次生(修士)(長期履修3年次)「学位論文計画書(変更届)」提出締切 2年次生(修士)(長期履修3年次)「学位論文」提出締切 2年次生(専門職学位課程)「最終成果報告書」提出締切
			※1月16日(木)は, 月曜日の授業, 1月30日(木)は, 火曜日の授業を実施する。

入試関係行事

- 学部推薦 (I型) 11月23日(土)
- 大学院 (中期選抜) 11月30日(土)
- 大学入試センター試験 1月18日(火)・19日(日)
- 学部推薦 (II型) 1月28日(火)
- 学部 (前期日程) 2月25日(火)・26日(水)
- 大学院 (後期選抜) 3月8日(土)
- 学部 (後期日程) 3月12日(水)

学生会主催行事

- クリスマス・イルミネーション 11月下旬～12月 図書館前
- 卒業記念パーティー 3月18日(火) 体育館

院学生会主催行事

- ソフトバレーボール大会 12月15日(日) 体育館

就職支援行事予定

- ※詳細は, 就職支援室で確認すること!! (平成25年10月～平成26年3月)
- 3年次合宿研修 10月22日(火)～23日(水)
- 大学院生就職研修会 11月2日(土)
- 教採対策ガイダンス (基礎編) 11月6日(水)・13日(水)・27日(水), 12月4日(水)・11日(水), 1月8日(水)・22日(水)・29日(水), 2月5日(水)・12日(水)・19日(水)
- 企業ガイダンス I・II 11月6日(水), 12月11日(水)
- 公務員等ガイダンス I・II・III 11月13日(水), 2月12日(水)・19日(水)
- 教採対策ガイダンス (論作文編) 11月20日(水), 1月15日(水)
- 就職ガイダンス ①～⑥ 11月27日(水), 12月4日(水)・11日(水), 1月8日(水)・15日(水)・22日(水)
- 教採実技ガイダンス (集団) 12月7日(土)
- 本学出身教職関係者との情報交換会 2月1日(土)
- 教採実技ガイダンス (個人) 2月15日(土)
- 教員採用模擬試験 3月1日(土)

編集後記

着任された教職員の方々の紹介から始まり, 四国地区総合体育大会で活躍する学生さん達の様子, 子ども歩き遍路, 大学祭や課外活動, 附属学校の紹介, 国際交流等の様子が掲載された「学園だより第68号」が完成しました。どんな小さな記事, 1枚の写真にもそれぞれの思いがたくさん詰まっていることでしょう。小さな光がたくさん集まって本学が輝くことになります。ご投稿いただきましたすべての方に心から感謝申し上げます。(MK)

